

ROHM MUSIC FOUNDATION 30TH ANNIVERSARY PROJECT (Vol.1)

京都市交響楽団
プレミアム・コンサート in 京都

2023.1/25[水] 19:00開演

ロームシアター京都 メインホール

主催：公益財団法人 ロームミュージックファンデーション 協賛：ローム株式会社

ごあいさつ

この度は「ROHM MUSIC FOUNDATION 30TH ANNIVERSARY PROJECT Vol.1 京都市交響楽団 プレミアム・コンサート in 京都」にご来場いただき、誠にありがとうございます。

公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーションは、京都市に本社を置く半導体・電子部品メーカーであるローム株式会社および創業者の佐藤研一郎(1931年～2020年)が中心となって1991年に設立され、若手音楽家の育成やコンサート支援など音楽文化の普及と発展のためさまざまな活動を行っており、2021年に設立30周年を迎えました。

「ROHM MUSIC FOUNDATION 30TH ANNIVERSARY PROJECT」は設立30周年を記念し、より多くの方に音楽をお届けするために各地域のオーケストラとともに全国各地でコンサートを開催するプロジェクトとなっております。

コンサートではローム ミュージック ファンデーションが過去に若手音楽家育成事業でかかわり、現在国内外で活躍する音楽家「ローム ミュージック フレンズ」の出演や岩代太郎氏に作曲していただきました設立30周年記念曲の演奏など華やかなプログラムをお届けします。

素晴らしい音楽家たちが生み出す上質な音楽のひと時をお楽しみください。

公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション
ローム株式会社

PROGRAM

ローム ミュージック ファンデーション設立30周年記念 委嘱作品

岩代 太郎／東風慈音ノ章 <世界初演>

Rohm Music Foundation 30th Anniversary Work

Taro Iwashiro/The Chapter of KOCHI-JION <World Premiere>

E.エルガー／チェロ協奏曲 ホ短調 Op.85

E. Elgar/Cello Concerto in E Minor Op.85

I アダージョ～モデラート

Adagio - Moderato

II レント～アレグロ・モルト

Lento - Allegro molto

III アダージョ

Adagio

IV アレグロ～モデラート～アレグロ・マ・ノン・トロッポ

Allegro - Moderato - Allegro ma non troppo

—休憩20分—

10分でわかる「新世界より」—構成:新井鷗子—

Knowing "From the New World" in 10 minutes —Script: Oko Arai—

A.ドヴォルザーク／交響曲 第9番 ホ短調「新世界より」Op.95

A. Dvořák/Symphony No. 9 in E Minor Op.95 "From the New World"

I アダージョ～アレグロ・モルト

Adagio - Allegro molto

II ラルゴ

Largo

III スケルツォ:モルト・ヴィヴァーチェ

Scherzo: Molto vivace

IV アレグロ・コン・フオーコ

Allegro con fuoco

指揮:角田 鋼亮 Conductor: Kosuke Tsunoda

チェロ:佐藤 晴真 Cello: Haruma Sato

管弦楽:京都市交響楽団 Orchestra: City of Kyoto Symphony Orchestra

司会:朝岡 聡 MC: Satoshi Asaoka

MESSAGE & PROFILE

ローム ミュージック ファンデーション設立30周年記念 委嘱作品

東風慈音ノ章

<世界初演>

公益財団法人ローム ミュージック ファンデーションからの
ご依頼を賜り光栄に存じます。

委嘱を賜った際、

「芸術性を探求するがゆえの難解かつコンテンポラリーなアプローチではなく
万人にとって親しみやすい曲調を基本として欲しい」
とのご要望を伺いました。

重ねて、

当公益財団法人が

長年に渡り音楽界の裾野を広げる為の文化貢献に寄与してきた実績や、
今後に向けた展望も鑑み、

「プロフェッショナルなオーケストラによる演奏プログラムとしての作品性」
ならびに、

「アマチュア・オーケストラにもご活用戴ける音楽性」

とのバランスを心掛けました。

演奏における難易度も、過度に上げ過ぎないように配慮いたしました。

日頃から

「教育と文化が国の将来(カタチ)を創り出してゆく」

と信じている私にとって、

この度の御縁は身に余る喜びです。

今一度、御尽力を賜った関係者の皆様へ、

心からの御礼を申し上げたく存じます。

分断された世界において、

「音楽は心在る場所に宿る」と信じております。

2022年12月

岩代 太郎



©Rowland Kirishima

岩代 太郎 Taro Iwashiro (作曲)

1965年東京都出身。東京芸術大学音楽学部作曲科首席卒業、同大学院修士課程首席修了。
在学中は南弘明、近藤譲、松下功、黛敏郎各氏に師事。'91年、修了作品「TO THE FARTHEST LAND
OF THE WORLD(世界のいちばん遠い土地へ)」がシルクロード管弦楽国際作曲コンクールにて
最優秀賞を受賞。同曲は東京芸術大学資料館に永久保存されている。

以後、テレビ・映画・アニメ・舞台など幅広いジャンルで活躍。'99年、TVドラマ『WITH LOVE』のサン
トラ盤「ONCE IN A BLUE MOON」で日本ゴールドディスク大賞(インストゥルメンタル部門)を受賞。
'00年、NHK大河ドラマ「葵 徳川三代」ではスケール感のある壮大なオーケストレーションを披露し、若手
実力派として認められる。'03、「殺人の追憶」を担当し、アジアはもとより世界から高い評価を得る。'09
年、「Red Cliff Part1」で香港金像獎最優秀音楽賞を受賞。「Red Cliff」はPart1&2共に、国内にお
けるアジア映画の興行成績を塗りかえる大ヒットを記録した。'08年北京オリンピックのシンクロナイズ
ド・スイミングの音楽や、'09年11月に行われた「天皇陛下御即位20年国民祭典」での奉祝曲「太陽の
国」の作曲、'10年からのJRA日本中央競馬会のG1&G2&重賞レースの本馬場入場曲の作曲、'15年4
月には東京オペラシティコンサートホールで、また'16年3月にはサントリーホールで、自らの指揮で自作
オーケストラ作品のコンサートを開催。同年「映画音楽太郎主義～サウンドトラックの舞台裏～」を全音
楽譜出版より上梓。2018年3月、MANGA SYMPHONY「〇」(作画・奏画:浦沢直樹、作曲・指揮:岩代
太郎、管弦楽:東京フィルハーモニー交響楽団)を世界初演。また同年8月～9月、自らの企画・原作・音楽に
よる、演劇と音楽のあたらしいカタチの舞台、奏劇「ライブ・コンチェルト」を紀伊國屋ホールにて公演。
9月には奏劇「ライブ・コンチェルト」コンサートを紀尾井ホールにて開催。映画「FUKUSHIMA
50」において、IMFCA 2020 第17回国際映画音楽批評家協会賞「BEST ORIGINAL SCORE
FOR A DRAMA FILM」部門最優秀賞を受賞。2022年12月には奏劇第2弾となる「Trio～君の
歌が聴こえる」を自身の企画・原案・作曲・演奏でよみうり大手町ホールで開催。2023年7月には
奏劇第3弾「メトローム・デュエット」をよみうり大手町ホールにて公演予定。

また'13年東日本大震災の復興支援事業音楽プロジェクト「魂の詩」や、'21年新型コロナ感染拡大
に際しての音楽啓蒙活動プロジェクト「Kizuna Piano」、さらには'22年NPO法人「オトブミ集～
絆」を立ち上げ、次世代を担う若者たちへの「心の栄養」「心の支え」となるコンテンツ制作にも取り
組むなど、社会貢献活動も積極的に行っている。

2006年より東京都交響楽団理事。

PROGRAM NOTE

E.エルガー(1857-1934) チェロ協奏曲 ホ短調 Op.85

大器晩成タイプであったエドワード・エルガー(1857-1934)は50歳近くになって最盛期を迎える。だが、1914年に第1次大戦が勃発すると創作意欲は一旦下火となった。1918年に終戦の兆しが見えた頃から再び作曲に取り組もうと決心するが、このとき9歳年上の妻アリスが病床にあったため無類の愛妻家エルガーは妻の病状を気遣いながら五線紙に向かわなければならなかった。にもかかわらず、彼は1年半という短い期間に3曲の室内楽作品と本作を書き上げた。1919年6月19日に完成した本作は同年10月にクイーンズ・ホールでフェリックス・サルモンドの独奏によって初演された。しかし、翌1920年にアリスが逝くと63歳の彼は失意の晩年に入っていく。そうした黄昏の身辺事情を反映してか、この曲には色濃く憂愁の気分が漂い、独特の孤高の雰囲気醸し出している。初演時にはその重厚さと晦渋さから理解されにくかった本作もその後再演が続くうちに次第に愛好者を増やしていく。そしてイギリスの名チェリスト、ジャクリヌ・デュプレ(1945-1987)が1961年にこれを録音して大ヒットしたのを機に人気チェロ協奏曲として不動の地位を獲得した。

- 第1楽章 序奏はアダージョ、ホ短調、4/4拍子。チェロが魂の叫びのような悲嘆に満ちた独白を繰り返す。この旋律は全楽章にわたって循環主題風に使いまわされる。主部はモデラート、ホ短調、9/8拍子。ユニゾンのヴィオラから印象的な第1主題が姿を現す。
- 第2楽章 レント～アレグロ・モルト、ト長調、4/4拍子。スケルツォ楽章だが曲想は悲愴だ。16分音符楽句が無窮動風に続く。
- 第3楽章 アダージョ、変ロ長調、3/8拍子。弦、クラリネット、2本のホルンを伴奏として独奏チェロが連綿と優美な歌を歌う。
- 第4楽章 アレグロ～モデラート～アレグロ・マ・ノン・トロポ、ホ短調、2/4拍子。独奏チェロの技巧が花開く変化にとんだフィナーレ。第1楽章冒頭のレチタティーボが回帰したのち力強いコーダで堂々と全曲を結ぶ。

A.ドヴォルザーク(1841-1904) 交響曲 第9番 ホ短調「新世界より」Op.95

ボヘミアの小村に宿屋兼肉屋の息子として生まれたアントニン・ドヴォルザーク(1841-1904)は家業の継承を希望する父親を説得して音楽家を目指す。36歳のときブラームスに認められてからは道が開け、国内外に名声を確立していく。交響曲第8番が好評を得た翌1891年の春、彼は、ニューヨークのナショナル音楽院の経営者ジャネット・サーバー夫人(1852-1946)から1万5,000ドルという破格の年俵で同音楽院の院長就任を要請された。逡巡の末にこの話を受けた彼は1892年9月27日ニューヨークに第一歩をしるし、ヘンリー・バーレイ(1866-1949)という黒人バリトン歌手が聴かせてくれる黒人霊歌やインディアン民謡に慰めを見出していった。彼はそれらからヒントを得た楽想を新作交響曲に織り込んで1893年春に本作を完成させ、新世界アメリカから故郷の人々に宛てた音楽の手紙という意味をこめて「新世界より」の副題を冠した。1893年12月16日にカーネギーホールでアントン・ザイドル指揮ニューヨーク・フィルハーモニックによって行われた初演は大成功を収めた。

- 第1楽章 序奏はアダージョ、ホ短調、4/8拍子。主部はアレグロ・モルト、ホ短調、2/4拍子。チェロと木管による長大な序奏が終わると、弦のトレモロを伴うホルンが5音階による第1主題を呈示して主部に入る。ト短調の第2主題は黒人霊歌風である。
- 第2楽章 ラルゴ、変ニ長調、4/4拍子。イングリッシュホルンが郷愁にみちた有名な旋律を歌う。
- 第3楽章 スケルツォ：モルト・ヴィヴァーチェ、ホ短調、3/4拍子、スケルツォ。短い序奏ののち低弦から主題の動機が湧き起こりフルートとオーボエがボヘミア民族舞曲風のスケルツォ主題を示す。鄙びた第1トリオと舞曲調の第2トリオの2つの中間部を持つ。
- 第4楽章 アレグロ・コン・フォーコ、ホ短調、4/4拍子。全弦楽の強奏で序奏が開始されたのち、主部では行進曲調の第1主題とボヘミア的な第2主題がクライマックスを築く。最後にこれまでの楽章の各主題が回想されたのち幽玄な雰囲気の中に終結する。

[萩谷 由喜子]

PROFILE



©井上写真事務所 井上嘉和

京都市交響楽団 City of Kyoto Symphony Orchestra (管弦楽)

1956年に創立し、日本で唯一、自治体が設置し、運営に責任を持つオーケストラ。2008年4月第12代常任指揮者に広上淳一、桂冠指揮者に大友直人が就任。2014年4月から常任指揮者兼ミュージック・アドバイザーに広上淳一、常任首席客演指揮者に高関健、常任客演指揮者に下野竜也が就任。2015年広上淳一とともに「第46回サントリー音楽賞」受賞、同年6月広上淳一指揮のもとヨーロッパ公演で成功を収めた。平成28年度地域文化

功労者表彰、2017年「第37回音楽クリティック・クラブ賞」本賞等受賞。2017年4月から下野竜也を常任首席客演指揮者に据えて広上・高関・下野による3人指揮者体制を確立。2020年4月から第13代常任指揮者兼芸術顧問に広上淳一、首席客演指揮者にジョン・アクセルロッドが就任。2008年4月から2022年3月まで14年間にわたり常任指揮者を務めた広上淳一のもとでは、数々の名演を生み出して黄金時代を築き上げた。2023年4月からは第14代常任指揮者に沖澤のどかが就任することが決定し、京響は今、文化芸術都市・京都にふさわしい「世界に誇れるオーケストラ」として更なる前進を図っている。



©Hikaru Hoshi

角田 鋼亮 Kosuke Tsunoda (指揮)

東京藝術大学大学院指揮科ならびにベルリン音楽大学国家演奏家資格課程修了。2008年カラヤン生誕100周年記念の第4回ドイツ全音楽大学指揮コンクール第2位入賞。これまでに、ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団、ブランデンブルグ交響楽団、上海歌劇院管弦楽団、札幌交響楽団、山形交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、群馬交響楽団、NHK交響楽団、読売日本交響楽団、東京都交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、セントラル愛知交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、京都市交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、日本センチュリー交響楽団、広島交響楽団、九州交響楽団などと共演している。

2016-2020年、大阪フィルハーモニー交響楽団指揮者。2016年、「第11回名古屋ペンクラブ音楽賞」を受賞。2020年「令和元年度愛知県芸術文化選奨文化新人賞」「名古屋市立文化振興事業団第36回芸術創造賞」を受賞。現在、セントラル愛知交響楽団常任指揮者、仙台フィルハーモニー管弦楽団指揮者を務めており、いま日本で最も期待される若手指揮者の一人として活躍の場を拡げている。



©ビダキトモ

佐藤 晴真 Haruma Sato (チェロ)

ローム ミュージック フレンズ
〈ローム ミュージック ファンデーション2017、2018年度奨学生〉

現在、その将来が最も期待される新進気鋭のチェロ奏者。2019年、ミュンヘン国際音楽コンクール チェロ部門において日本人として初めて優勝して、一躍国際的に注目を集めた。2018年には、ルトスワフスキ国際チェロ・コンクールにおいて第1位および特別賞を受賞している。ほかにも泉の森ジュニア チェロ・コンクール金賞、全日本学生音楽コンクール第1位および日本放送協会賞、日本音楽コンクール第1位および徳永賞・黒柳賞、ドメニコ・ガブリエリ・チェロコンクール第1位、アリオン桐朋音楽賞など、多数の受賞歴を誇る。

すでに、国内外のオーケストラと共演を重ねており、室内楽公演などにも出演して好評を博している。テレビ、ラジオ番組にもたびたび出演。2018年、ワルシャワにて「ショパンと彼のヨーロッパ国際音楽祭」に出演。2019年には、本格デビューとなるリサイタル公演を成功裡に終える。

これまでに、林良一、山崎伸子、中木健二の各氏に師事。現在は、ベルリン芸術大学にてイエンス＝ペーター・マインツ氏に師事している。

2021年11月には、名門ドイツ・グラモフォンよりセカンドアルバム「SOUVENIR 〜ドビュッシー&フランク作品集」をリリース。第18回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第30回 outgoing 音楽賞受賞。令和3年度文化庁長官表彰。第32回日本製鉄音楽賞受賞。現在、ベルリン芸術大学在学中。使用楽器は宗次コレクション貸与のE.ロッカ1903年。



朝岡 聡 Satoshi Asaoka (司会)

横浜市生まれ。慶應義塾大学卒業。テレビ朝日にアナウンサーとして入社し、各種スポーツ中継の他「ニュースステーション」初代スポーツキャスターとして活躍。1995年フリーとなってからはテレビ・ラジオ・CMの他、クラシックコンサートの企画構成や司会でもコンサート・ソムリエとして活動のフィールドを広げている。とくにオペラと古楽ではユニークな評論が注目を集めており、クラシックの語り部としても幅広く活動中。興味深い内容を軽妙な語り口で展開する独自の世界は、新しい芸術ファンのすそ野を広げる司会者として注目と信頼を集めている。東京藝術大学客員教授。日本ロッシーニ協会副会長。

ローム株式会社について

ローム株式会社は、1958年に京都で設立した半導体・電子部品メーカーです。自動車や産業機器のほか、スマートフォンやパソコンをはじめとする通信機器、家電製品など、多様な市場に対して品質と信頼性に優れた半導体・電子部品をグローバルに供給しています。ロームは、技術の探究にとどまらず、企業活動の一環として、音楽を通じて豊かな文化をつくることへの貢献を目指しています。1991年には「公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション」を



設立。音楽を学ぶ学生への奨学援助による音楽家の育成をはじめ、音楽文化の発展・普及に向けた支援を行っています。特に京都では、文化芸術都市としての京都の街の発展へ貢献したい。そんな思いから、2016年に「ロームシアター京都」の50年間のネーミングライツを開始。文化芸術の創造・発信拠点として、音楽イベントへの協賛なども積極的に行い、京都の街への貢献を目指しています。

公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーションについて

ローム株式会社の創業者である佐藤研一郎(1931～2020年)は、かつてピアニストを目指していましたが、コンクールで思うような結果が出せず、その夢を諦め、ローム株式会社の前身である東洋電具製作所を設立しました。

しかし、その後も音楽を愛する気持ちを持ち続けた佐藤研一郎とローム株式会社を中心となり、1991年に公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーションを設立しました。



撮影：佐々木卓男

ローム ミュージック ファンデーションは、音楽文化の発展と普及に寄与することを目的にさまざまな活動を行っています。特に若い音楽家の支援に力を入れ、奨学援助や学ぶ機会を提供するセミナーなど、支援の形はさまざまです。ここでかかわった音楽家「ローム ミュージック フレンズ」は4,732名(2022年12月現在)にものぼります。

また、音楽文化の普及に必要な聴衆の拡大のため、音楽をより身近に感じていただけるようなコンサートを開催、支援しています。

ローム ミュージック ファンデーションの事業について

音楽文化の発展



奨学援助

音楽を学ぶ学生に対して奨学援助を行い、若い人たちの学ぶ環境の充実に取り組んでいます。



ローム ミュージック ファンデーション スカラシップコンサート

現役または奨学金給付終了直後の奨学生によるコンサートを開催しています。



京都・国際音楽学生フェスティバル

世界を代表する音楽学校から音楽学生を京都に招いてフェスティバルを開催しています。



ローム ミュージック セミナー

ローム ミュージック フレンズが講師となり世界を舞台に活躍する音楽家を育成するセミナーです。

音楽文化の普及



ローム ミュージック フェスティバル

ローム ミュージック フレンズが一堂に会す豪華フェスティバル。ローム・スクエアでは、関西の中学・高校の吹奏楽部によるコンサートも行っています。



*



ローム ミュージック チャンネル「Kyoto Classics」

京都の名所からローム ミュージック フレンズが音楽をお届けするコンサートを映像配信しています。

その他の事業や詳細については、ローム ミュージック ファンデーション公式WEBサイトをご覧ください。



<https://micro.rohm.com/jp/rmf/>

写真クレジット：*…撮影：大澤 正、他…撮影：佐々木卓男